

推奨学年：
第3学年～

「リコーダーのいろいろな音であそぼう」

育てたい力

- ・リコーダーの低い音や高い音の出し方に気を付けて、即興的に音やリズムを選んで表現しながらリコーダーの扱いに慣れる。
- ・呼びかけとこたえの様々な表現方法を知り、即興的に音を選んだり組み合わせたりして旋律をつくり表現する。

教材や教具

● タブレット端末や実物投影機

電子黒板などに映して、指導者の手元（運指など）を確認できるようにする。

● 教科書の二次元コード

第3学年 P.25～29、50、51、56、57 「はじめてふく音」
使う音や音の上がり下がりを見覚えられるようにする。

場の設定

- ・通常の教室内の配置で行う。三人～五人ずつに分かれて吹き、指導者はそれを聴いて運指や音色を見取るようにする。

活動内容

1 覚えた音でおはなし

ドレミファの指使いを覚え、息の使い方やタンギングの仕方を試しながら即興的に音を選んで表現する。

1 リコーダーのドレミファの吹き方を覚えて呼びかけ合う。



低い音に挑戦してみましょう。
優しい息で「トォー」と言うときのように口の中を広げて、タンギングをしましょう。

1) 「そーっとタンギング (トォー)」で隣の友達とひそひそ話をする。



トォー トトト
(聴こえないくらいの音量で)



トォー トトト
(聴こえないくらいの音量で)

2) **ドレミファ**の運指を確認し、指導者の吹く音を模倣したり、ペアで互いの音を模倣し合ったりする。

<例>



ポイント

・「口の中を広くする」「指の腹でしっかり閉じる」などの演奏のポイントを押さえながら、**ファ**から始めて順に**ミ**、**レ**、**ド**と加えていくようにします。子供にとって、**ド**はかなり難しいので、4年生以降も継続しましょう。

2) **ドレミファ**の音を使い、指導者や友達が吹く音に対して違う音でこたえる。

<例>



※子供どうしで行ってもよい。

ポイント

・慌ててこたえようとして運指が分からなくなる子供がいたら、模倣してもよいことを伝えます。子供の実態に応じて、サミングの高音に対して低音でこたえたり、イ短調の音階を使って**ミファ#ソラ**でこたえたり、使う音を**ソ#ソ**の2音に限定したりするなど、ルールを変えて行うようにします。

2) ながーくみじかく

学習してきた音を使い、息の使い方やタンギングの仕方に気を付けて、即興的に音を選んだりリズムを工夫したりして表現する。

1) **ド～ファ**から音を選び、長い音と短い音で呼びかけ合う。

<例>



※子供どうしで行ってもよい。

ポイント

・低い音では、短く切るタンギングが難しいので、実態に応じて適宜タンギング唱やドレミ唱(階名唱)を加えながら行います。

2 指導者が1音を3拍のばしたあと、4拍目に合いの手として違う1音を短く♪か♪でこたえる。

<例1>

ドレミファから、先生とは違う音を選んでこたえてね。
みんなでこたえるときの音は、ミにしましょう。

<例2>

サミングの高音でこたえてね。みんなでこたえるときの音は、ミにしましょう。
慣れてきたら、違う音でこたえてもいいですよ。

<例3>

先生の音がソなら#ソで、#ソならソでこたえてね。

ポイント

- ・使う音によって、活動しやすいルールを決めておきます。合いの手にサミングを入れるときは、乱暴になりがちなので、丁寧に演奏するように促します。途中で止めずに繰り返して行くと、合いの手のタイミングをつかめるようになります。呼びかける「長い音」と合いの手の「短い音」の役割を指導者と子供で交替して行い、慣れたらペアを組んで行います。

3 指導者や友達の演奏した旋律のリズムを拡大したり縮小したりしてこたえる。

<例>

ポイント👉

- ・慣れるまでは学級全体で1音のみを使った4拍のリズムを確認しながら変化させていきます。子供の実態に応じて、先に演奏した音と違う音で拡大・縮小してこたえる、使う音を1音から2音に増やすなど、変えていくこともできます。

題材の学習内容や教材との関連

1 常時的な活動として位置付ける

音の数を1音から増やして取り組むことで、リコーダーの運指や息の使い方などを思い出しながら、リコーダーに慣れ親しむ。

1 リコーダーの授業の開始時に行う。



指づかいは覚えているかな。先生や友達
のまねをしながら思い出しましょう。

<まねをする旋律の例>

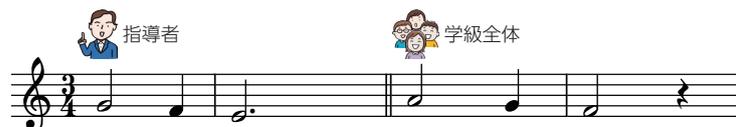


ポイント👉

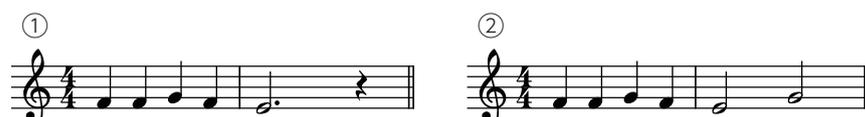
- ・時間がたつとリコーダーの運指を忘れがちです。指導者や友達の旋律を模倣しながら運指や演奏の仕方を想起し、リコーダーの扱いに慣れていくことができます。
- ・4拍の旋律であれば、短時間で模倣や即興的な表現を行うことができます。様々な友達の旋律を模倣するように展開すれば、リコーダーを通して友達と交流を深めることもできます。

2 器楽曲で運指の難しい部分を抜き出して、呼びかけ合ったり模倣したりする。

<例1> 「メリーさんのひつじ（3拍子）」（第3学年 教科書P.50、51）のリコーダー2の5～8小節。子供どうしで行ってもよい。



<例2> 「パフ」（第3学年 教科書P.56、57）の5～6小節



ポイント

- ・即興的にいろいろな音で表現していく中で、運指やタンギング、息の使い方などを適宜確認していくと、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりに実際の演奏を伴って気付くことができます。
- ・旋律を演奏するのが難しい場合は、<例2>の①のように後半4拍を簡略化して提示します。慣れてきたら②のように音を増やして、もとの旋律に近付るようにします。

2 題材の学習と関連付ける

歌唱教材と関連させて、「旋律の模倣」や「違う旋律でこたえる」を行う。

1 第4学年 題材5 『せんりつのとくちょうを感じ取ろう』 「とんび」(教科書P.36、37)

ドレミソラの5つの音(五音音階)を使って、呼びかけとこたえの旋律をつくる。

- 1) 旋律の音の上がり下がりを感じ取りながら、「とんび」をドレミ(階名)で歌う。
- 2) 運指を確認しながら、指導者が演奏する旋律を模倣する。

<例>

指導者 学級全体

伴奏

- 3) 呼びかけの旋律に対して、同じリズムや違うリズムでこたえの旋律をつくる。

<同じリズムを使う例>

指導者 学級全体

伴奏

<違うリズムを使った例>

指導者 学級全体

伴奏

ポイント

- ・「とんび」の学習と活動内容②「ながーくみじかく」を関連させることで、音の上がり下がりとリズムの違いによる呼びかけとこたえの旋律づくりを展開できます。「提示されたリズムから選ぶ」「ドレミソラから2音（または3音）選ぶ」など条件を（限定して）設定することで無理なく学習に取り組めるようにします。
- ・第4学年 題材8『日本の音楽でつながろう』の『「さくら さくら」の音階でせんりつづくり』（教科書P.62、63）では、日本の五音音階が示されています。「とんび」の五音音階の活動を振り返ることで、旋律づくりの学習を無理なく行うことができます。

題材のねらいに沿った活動を工夫して、「旋律の呼びかけ合い」を行う。

2 第6学年 題材3『和音のひびきや音の重なりを感じ取ろう』 『雨のうた』の和音で旋律づくり（教科書P.30、31）

イ短調のⅠとⅤの構成音で旋律をつくる。

<例>

●音の上がり下がりの中から音の動き方を選びましょう。
●和音にふくまれる音の中から音を選んで、自分の4小節の旋律をつくりましょう。

自分の旋律

音の上がり下がり

旋律をつくるリズム

和音にふくまれる音

選んだ音

和音と低音をさく

和音と低音の再生

♩ = 96

リセット

- 1) イ短調の和音の構成音の中から音を選んで、4拍の旋律をつくり、それを模倣したり違う音の上がり下がりでもたえたりする。

<例>

模倣

伴奏

違う音の上がり下がり

伴奏

- 2) イ短調の和音の構成音の中から音を選び、2小節の旋律を学級全体で試しながらつくる。

<例>

旋律をつくるリズム

和音にふくまれる音

ミ	ミ	ミ	ミ	ミ	ミ
ド	ド	シ	シ	ド	シ
ラ	ラ	#ソ	#ソ	ラ	シ
ミ	ミ	ミ	ミ	ミ	シ

選んだ音

ラ	ラ	シ	#ソ	ミ	シ
---	---	---	----	---	---



和音に含まれる音を使って旋律をつくりましょう。
どんなつなげ方にしたいですか。

ラの音から上がったたり下がったりしてみたいです。



- 3) 2) でつくった旋律に、音の上がり下がりが違う2小節の旋律でこたえる。
- 4) 二次元コードコンテンツに示された和音に含まれる音の中から音を選び、リコーダーで試しながら4小節の旋律をつくる。

ポイント

- ・学習の導入で、二次元コードコンテンツを活用し、指導者と一緒に音の上がり下がりやつなげ方を試しながらつくることで、和音の響きを意識できるようにします。リコーダーの低い音を十分に演奏できるようになっていれば、第5学年 題材4 『和音のひびきの移り変わりを感じ取ろう』の『静かにねむれ』の和音で旋律づくり（教科書P.38、39）でも、この『雨のうた』の和音で旋律づくりと同様の活動を展開することができます。